



＜いいじま・ゆきひさ＞1988年埼玉歯科技工士専門学校卒、歯科技工士資格取得。92年明海大歯学部卒、歯科医師資格取得。日本の名医阪初彦先生に師事。95年開業。2004年紺綬褒章受章。2011年埼玉県知事表彰。2013年高円宮名誉総裁表彰（日本水難救済会）。2014年第42回医療功労賞受賞（読売新聞社）

年中無休24時間対応の個人歯科診療所

大変だったのは真冬の深夜3回と立て続けに遠方からの急患を診た時です。

「歯」の痛みには休日はありません。今

では埼玉県内の患者さんだけでなく、群馬、栃木、千葉、長野、東京などの遠方からも休日や夜間の

診療に来院されます。年末年始の6日間だけでも150〜200人近くの患者さんが訪れます。診療所で死ねたら本望との気持ちでやっています」

ことなく19年間続けてきた。その実績が認められ今年6月保健医療福祉の分野で最も権威ある「保健文化賞」の受賞者のひとりに選ばれた。

全国でも珍しい24時間365日対応の個人歯科診療所。埼玉県本庄市に開業して以来、休診する

「最初は、ここから少し離れた場所にテナント開業して、自宅があった川越から電車通勤していた

のですが、夜8時頃になると急に歯痛に襲われた患者さんから電話がかかってくる。気が付けば終電を逃してしまふ。それに深夜の歯科救急の問い合わせに地元消防署が困っていると聞いたので、「誰もやらな

いのなら自分がやろう」と、

「二番大変だった思い出は、真冬の深夜0時、午前2時、午前4時と立て続けに遠方からの歯痛の患者を診た時です。急患で多いのは、虫歯が進行して炎症が神経まで及ぶ歯髄炎、さらに炎症が顎の骨に広がる顎炎などです。特に休日や夜間に我慢できないほどの強い痛みが出るのは交感神経優位から副交感神経に切り替わるから

です。

また、多くの歯科

開業4カ月後には待合室のソファで寝泊まりするようになり

木曜の昼間には、幼稚園や小学校での転倒事故の対応が多い。昨年は、部分入れ歯を支える金属のバネが舌を貫通した70代の男性が、どこも休診のため、同院に救急搬送されてきた。

通常の診療時間は9時〜21時だが、救急の場合でも時間外加算は取らない。

患者は1日平均30〜40人。歯科医師と歯科技工

士のダブルライセンスを持つので診療は全てひとりで行なっている。

「開業4年目から、今の場所の自宅兼診療所です。ツプがいなくても問題はありませぬ。それに、この診療体制では、歯科衛生士を募集しても誰も勤めてくれませぬよ。雑務は家族が協力してくれています」

社会貢献が大好きで難病医学研究財団やシラコバト長寿社会福祉基金などに、診療収益から毎年300万〜500万円を寄付している。上越新幹線の本庄早稲田駅建設募金では、寄付額第1位。2004年に天皇陛下から紺綬褒章を授与された。

「歯で急死することはないので、歯科救急制度は後回しにされがちで不十分です。ひとつの市に私のような変わり者の個人医師が1人、2人頑張っていれば、どうにか対応できる。地域の歯科救急体制が整うまで、年中無休の24時間対応を続けていくつもりです」

時間外加算なし、スタッフなしで19年間